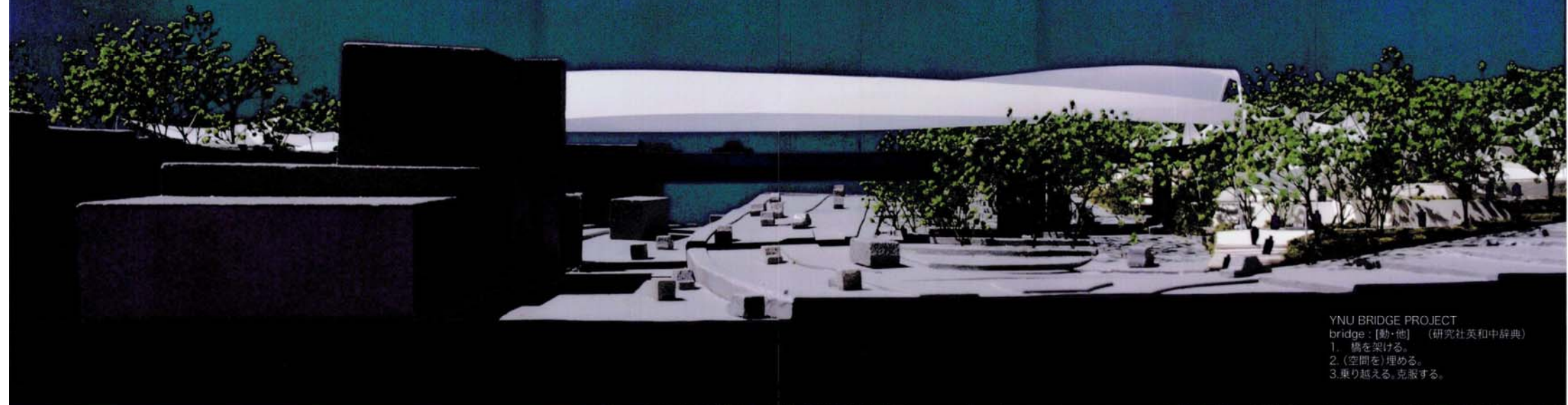


「繋ぐ」～軽やかで強い風景の創出～
 <空と大地と人間を結びつけるランドスケープの提案>



YNU BRIDGE PROJECT
 bridge: [動・地] (研究社英和中辞典)
 1. 橋を架ける。
 2. (空間を) 埋める。
 3. 乗り越える, 克服する。

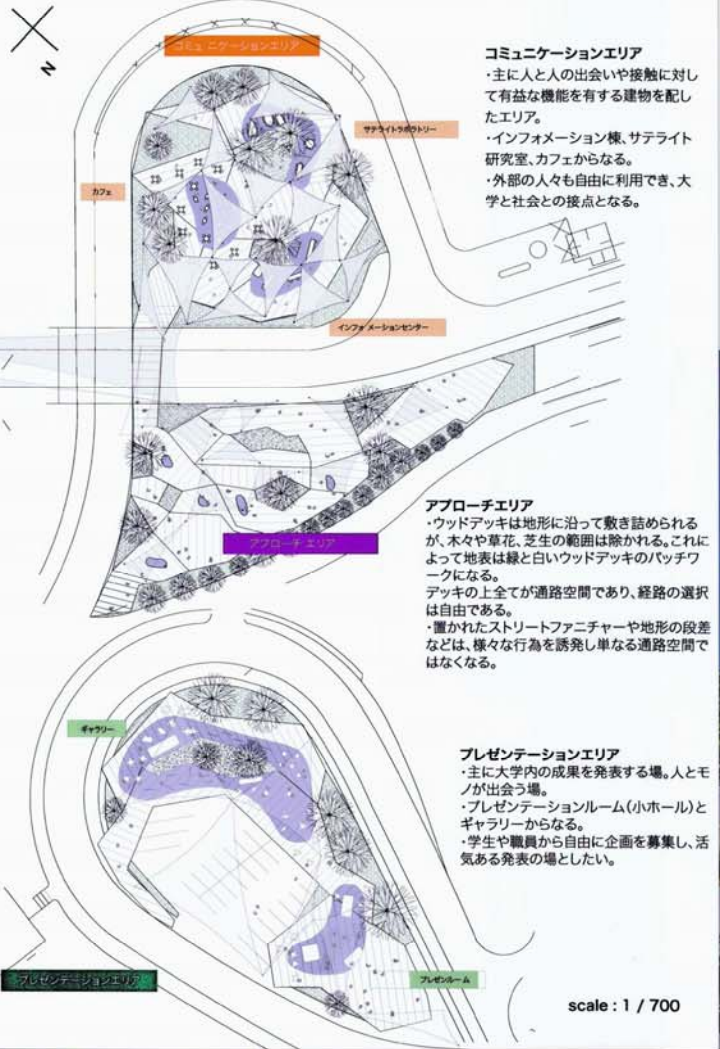
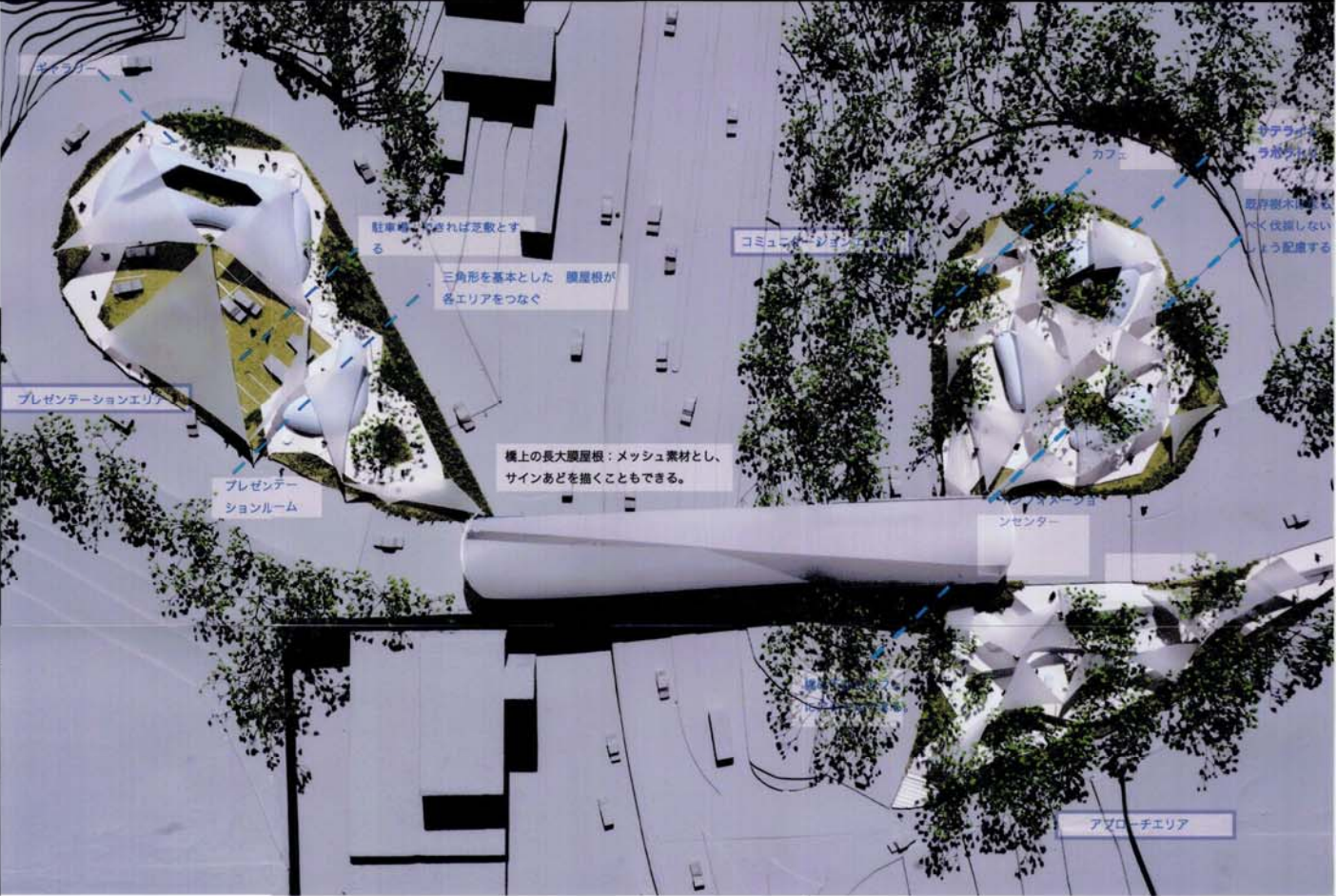
横浜国立大学にとって、極めて大切な位置付けとなる国大橋および、その周辺エリアを「繋ぐ」という言葉を軸に、空と大地と人間を結びつけ、21世紀の大学の活動に有益となる場を創造する事を提案いたします。
 そのために、大学の未来の礎となる3つのキーワードと、3つの景が織りなす重層的な空間を与えます。学生や職員のみならず、周辺の人々や自動車で通過する人達にとっても、刺激的であり有益な場となり、より開かれた大学の顔として、今後重要な位置付けとなる事を切に願います。

- 3つのキーワード(横浜国大の未来を象徴)
1. **知**: 刻々と歩み続ける英知の場。科学や、技術の最先端を育む場。
 2. **自然**: 全てを受け入れる地球。緑豊かな横浜国大のもの。
 3. **人**: 知を許容する豊かな身体。人間同士の豊かな関係。

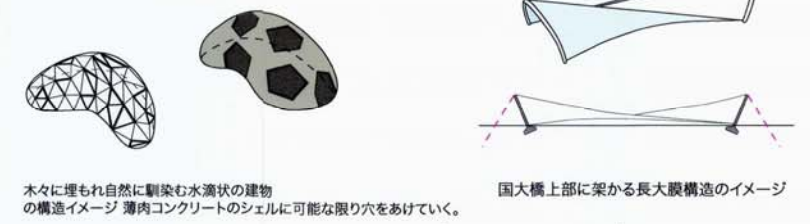
- 3つの景(TOTAL LANDSCAPE: 統合的風景)
1. **ground-scape**: 地形の抽象化。白いウッドデッキ敷とする。
 2. **building-scape**: エリアに点在し各種活動を活性化させる建物。
 3. **sky-scape**: 新たなスカイラインの構築。キャンパス同士を繋ぐ象徴として。

上記のキーワードと景が相互に繋がって、活気あるそして意味の強化された場が生まれます。

	ground-scape +	building-scape +	sky-scape
	全てを許容する白いデッキ 可能性の象徴として	様々な研究や学生活動の 発表の場	南北キャンパスの意味を 繋ぐ
知 intellect			
	木々をさけ、地形に馴染むよう 配置された水漏形の建物	3つのエリアを繋ぐ膜屋根 新しいスカイライン	
自然 nature			
	抽象化された地形	木々や草花との共存	新たな風景(スカイライン)の創出
人 activity perception			
	既存樹木や地形が誘発する 様々なアクティビティ	人々が集まる様々な場 人と人との出会い	三角形の連続が人と人との 出会いの連続を想起させる。

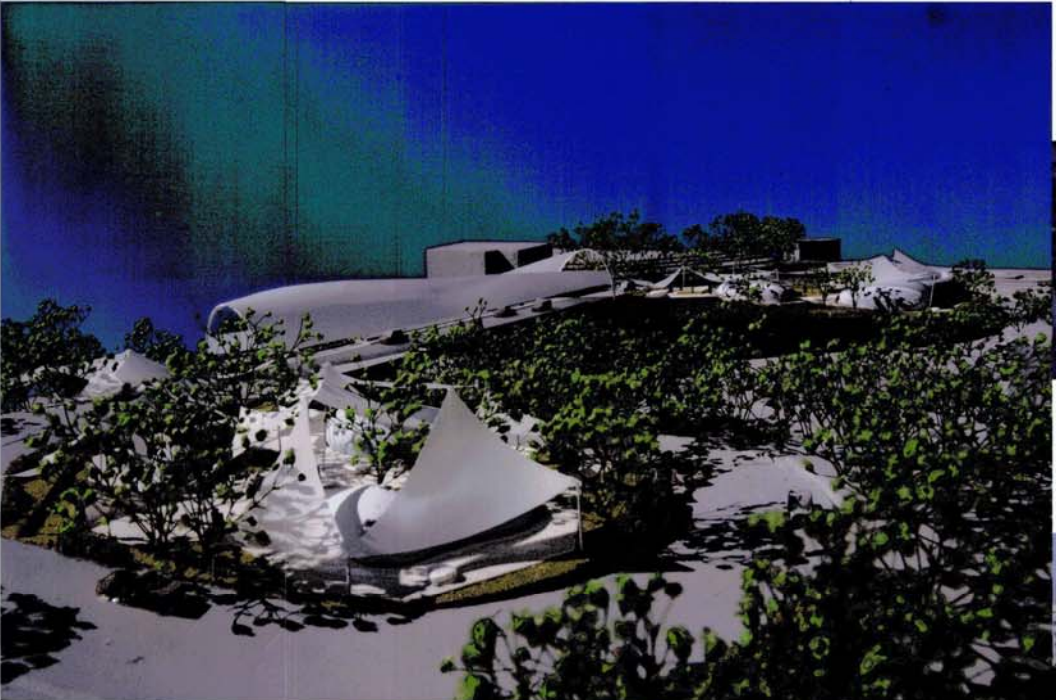
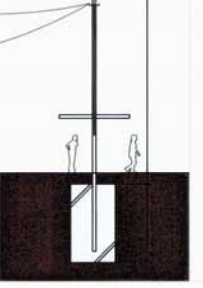


構造イメージ



60 columns

計画敷地内には約60本のポールが立ち並びます。この数字は60周年という数字を意識して厳密に規定するのもしもありません。
 ポールは膜屋根を支えるだけでなく、LEDの照明器具を設置したり、サインを設置、また無線LANのアクセスポイントとなるなど、様々な役割を担います。



膜屋根:
 国大橋上の長大膜屋根はメッシュ状の素材を使うと共に、サインをプリントする事ができます。横浜の名称などをデザインして印刷するのも良いかもしれません。
 デッキの起伏:
 第二の自然ともいべきウッドデッキによる地形は、段差や傾斜が様々なアクティビティを生みきっかけとなります。

拡張する膜屋根
 近未来的なものの象徴でもある膜屋根は、このエリアのみならず、将来的にはキャンパス内に連続的に拡張していく事も想定されています。現在建築棟の屋上に設置された膜屋根は、一足先に実現して次の展開を待っています。

